

宮城・仙台城跡

せんだいじょう

- 1 所在地 宮城県仙台市青葉区川内
- 2 調査期間 第一六次調査 二〇〇六年(平18) 九月～十一月
- 3 発掘機関 仙台市教育委員会
- 4 調査担当者 渡部 紀・鈴木 隆・鹿野仁子
- 5 遺跡の種類 城館跡
- 6 遺跡の年代 江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

仙台城跡は仙台市街地の西方に位置する山城で、青葉山丘陵及びその麓の河岸段丘部分に城域が形成されている。初代仙台藩主伊達



(仙 台)

政宗が、慶長五年(一六〇〇)一二月に築城を開始し、慶長七年五月に一応の完成をみた。

調査地は、三の丸巽門跡東側周辺に位置する堀跡で、調査面積は四七二㎡である。調査の結果、杭列や集石を伴う堀の北岸・西岸を検

出した。堀の底面は未確認だが、一七世紀の遺物を含む粗砂層(XIX層)が確認され、堀の規模は、南北幅が三五m以上、深さが現地表面より六・三五m以上となる大規模なものであることがわかった。堀の堆積層は二一層に大別される。

木簡は、堀北岸近くのIV層から一点出土した。IV層は、自然木、伐採木を多く含み、近代に形成されたと考えられる。IV層の相伴遺物には下駄や漆塗りの板材など多数の木製品がある。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「御用之」□□



(99.5)×36.5×4.3 019

上端と左右両辺は原形をとどめているが、下端は欠損している。墨書の内容から荷札と考えられる。裏面にも墨書された文字が見られるが、判読は難しい。樹種はスギである。

なお、釈読にあたっては、仙台市博物館の斎藤潤氏のご教示を得た。

9 関係文献

仙台市教育委員会『平成一八年度調査報告書 仙台城跡七』(仙台市文化財調査報告書三〇九、二〇〇七年)

(鹿野仁子)

